

徳永製菓が販売

10月の新作「竹炭カシユ」

徳永製菓(福山市胡町四二一、上迫豊社長)は10月の新作「竹炭カシユ」写真を、同社が運営する豆徳本店(同)などで販売している。

同社のオリジナル商品「竹

炭シリーズ」(竹炭豆、竹炭大豆、かぼちゃの種竹炭)に新たに仲間入りした竹炭カシユ。カシューナッツに竹炭の粉末を練り込み、豆徳本店秘伝のしょうゆダレで飽きのこない

甘辛い味に仕上げた。八〇グラム入りで四八六円。

豆徳本店は10月で開店一八周年を迎え、31日まで感謝祭を実施している。定番商品を少し増量して販売するなど、期間限定のオススメ商品を多数そろえる。

問 豆徳本店 ☎084・922・2710



福山職業能力開発短期大学校(福山市北本庄四一八一)で10月28日、備後地域の小学生を対象にした体験学習「ものづくりフェスタ2023」が開催される。参加者を募集している。参加無料で定員は六〇人。

問 同校学務援助課 ☎084・926・2351

夕暮れの灯り [180]



—カラオケと酒は百薬の長—
今田 昭和(いまだあきかず)

この物語は日記や記憶をもとに創作し、「コミカルタッチで、つづったものである。話は時として飛んだり、ひっくり返るが、ご容赦願いたい。

「店内はピンク一色」

捨てがたい情報だから待ち続けていた。昨年の11月に尾道へ出向き、昼飲みをのハシゴをした折、途中に寄った「カラオケ店」で耳に入れたのだ。「この近くに店内をピンクで統一した、風変わりな

喫茶店がある」という話だった。しかも、アルコール類が充実している、というから食指が動いた。

尾道まで行って昼間に飲み歩いたのは、風情があり、レトロ感がある店で一杯やりたい、と思い立ったからだ。実行するに当たり、尾道在住の後輩に四軒を紹介してもらったが、一軒残して「年には勝てん」と切り上げた。この件も含めて、心に懸かっていることを解決しようと、物

好きなジイさんは、4月某日に再び尾道へ足を運んだのである。

時は旅行シーズン。午後2時台に尾道に到着した電車からは、旅行者風の人たちが多く降りた。店名は分からないが、まずは「ピンクの店」を目指す。「尾道本通りアーケードの入り口近くにある林芙美子像を左に見て、アーケード内を東へ向かって、一〇分ほど行けば目に入る」と、カラオケ店で会った女性客は言っていたが…。そう思いつつ歩いていると、店頭にドラム缶が目に入った。

缶をテーブルにして、二人の中年男性が何やら飲んで

いた。その光景を見て、「無(ナ)イス立ち飲み」と、立ち飲み店の標語が頭の中に浮かんだ。店の軒下には、看板だろうか、「ARISA RISA」とあった。カタカナ語や英語にとんと弱い私は「アリスアリス」と読んだが…。とりあえずドアを開け、突入

する。

誰もいない店内に足を踏み入れた途端、目が点になった。「店内はピンク一色」と聞いてはいたが、たまげた。壁面はおろか、カウンター、イスなど全てがピンク。私がドアを開けた気配を感じ取り、髪をピンクに染めた人が現れる…。と思いきや、調理場から出て来たのは、主婦然とした、五〇代とおぼしき女性だった。

「いらっしゃいませ」。私がドアの近くに立ちすくんでいると、「初めてのお客さんは、皆さん驚かれますよ。どうぞお座り下さい」。ママはピンクのイスへと促した。



つづく